

すこやか

統合失調症薬「クロザピン」

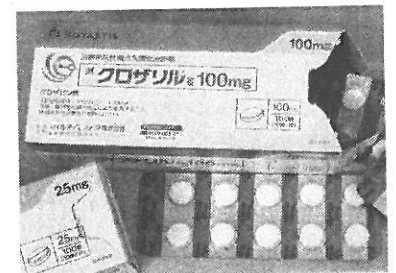
治療抵抗性に適用

統合失調症は薬物療法が治療の土台をつくるが、どの薬でも症状の改善がみられない「治療抵抗性統合失調症」がある。この「治療抵抗性」に唯一有効性が認められている抗精神病薬「クロザピン（商品名・クロザリル）」が昨年夏に国内販売されるようになり、県内でもことし3月から琉球病院で使用されている。クロザピンは「治療抵抗性」の「最後の切り札」とされる一方で、重い副作用が懸念される。琉球病院の森順子医師に効果や副作用について聞いた。

「副作用への対応整備」 琉球病院 森順子医師

「治療抵抗性」の患者の多くは長期入院や入院の繰り返しが続く。白血球の一種で細菌が強いとされている。森医師は「再入院を減らすことがデータの分かっている」と話す。一方で「100人に1人程の割合で重篤な副作用が起こることがあり、慎重に取り扱う必要がある」と指摘する。

付きて退院が可能になる。医療機関側にも、無顆粒球症発症の際に迅速に対応する体制が必要となる。琉球病院は院内にクロザリル使用委員会を設置。副作用の発症時に感染症を防ぐための無菌室を整備し、県立中部病院（うるま市）との連携体制も整えた。ほかにも使用



治療抵抗性統合失調症の「最後の切り札」ともいわれる抗精神病薬

する医師、薬剤師のほか、患者も「クロザリル患者モニタリングサーベillance」に登録、安全管理を徹底する。現在、同院では患者6人が服用している。眠気やだるさを訴える患者はいるが、重篤な副作用は出ていないという。「1ヵ月以上の長期使用者が3人いる。幻覚妄想だけでなく、衝動的で情緒不安定な人もよく効く。暴言が激しく対話もできなかった人が柔らかくなるなど感触は非常にいい」と森医師。「副作用は怖いけど、対応できる体制を整えた。ほかの医療機関からの紹介も受けており、関心がある人はまず主治医に相談してほしい」と話す。

（岩崎みどり）

琉球病院は金武町金武7958の1。☎098（968）2133（代表）。同院のクロザピンに関する相談窓口は医療連携室。



「家族に副作用について十分に説明した上で使用開始する」と話す森順子医師（金武町の琉球病院）

最も危険な副作用は無顆粒球症だ。白血球の一種で細菌に対する防御機能を果たす顆粒球が極端に減少するもので、感染に対する防御力が低下し肺炎などの感染症を引き起こす危険性もある。そのため使用には①2剤以上の抗精神病薬を十分量、十分期間使用したにもかかわらず症状が改善されなかった②ほかの薬剤は副作用があり十分に使用できなかった③使用開始直後に副作用が出やすいため数週間は入院。その後も、症状確認のできる同居人がいること、定期的に通院し血液検査することなどの条件

11月30日琉球新報